

70周年記念祝賀地車パレード

地車紹介 アナウンス文面案内

※紹介順番に掲載しています

(場所：長野商店街前)

令和6年5月19日(日)

**祝賀
地車
パレード**

河内長野市市制施行70周年記念

プログラム&パレードコース

| | |
|--------------|---------------|
| 市役所駐車場地車入場 | 10:00 ~ 入場 |
| 西代神楽・日野地区獅子舞 | 11:00 ~ 12:00 |
| 26台集結セレモニー | 12:00 ~ 12:30 |

祝賀地車パレード

| | 先頭 | 最後尾 |
|---------|-------|---------|
| 市役所出発 | 12:30 | ~ 13:45 |
| キックス通過 | 12:45 | ~ 14:00 |
| 長野中学校通過 | 13:00 | ~ 14:15 |
| 七つ辻通過 | 13:15 | ~ 14:30 |
| 河内長野駅 | 13:20 | ~ 14:35 |



河内長野市
市制施行70周年

つながる河内長野

パレード実行順
 長野→古野→松ヶ丘→片浜→鳴尾→小塩→新→南郡→木戸本郷→北部→市西→上田→西代→喜多→市東→石坂→内野→上原→高向上町→原→高西中町→野作→高向下町→下西代→百成会

当日は地車（だんじり）実行に伴い、交通規制や迂回をお願いいたします。交通の遅延も予想されご迷惑おかけしますが、ご協力くださいます様お願い致します。祭礼総合情報アプリをご利用いただければ、リアルタイムのだんじり位置情報をご覧頂けますので迂回ルートにご活用ください。駐車場はありません。ご来場は電車・バス等公共交通機関でお越しください。



祭礼総合
情報アプリ
全26台
GPS
位置情報




App Store
GET IT ON Google Play

ホームページ
河内長野市市制施行70周年
記念祝賀地車パレード

http://city.kawanabe.lg.jp/70th-anniversary/



① 長野（ながの）長野地区

河内長野に数多くあるだんじりの中でも、長野のだんじりはその歴史の古さで知られています。初代は今から約200年前、江戸時代の文化(ぶんか)13年の記録に記され、2代目となる現在のだんじりは、明治20年代に住吉(すみよし)大佐(たいさ)より購入したものです。大工は、「11代目川崎(かわさき)仙之助(せんのすけ)」、彫り師は「彫又(ほりまた)一門(いちもん)」、彫り物の題材は「源頼光(みなもとのよりみつ)の鬼退治」などです。平成4年に彫り物を大切にそのまま残して、地域をあげての大修理を行いました。

河内長野で唯一、ここ、駅前の長野神社に地車小屋(じぐるまごや)を持ち、宮入(みやいり)を行うだんじりとして、広く住民に愛されてきました。また、2009年には、保存会、青年団の手により、泉大津の地車(じぐるま)大工「泉谷(いずたに)工務店」にお願いし、2020年の文化庁文化遺産総合活用推進事業助成金を活用し岸和田の植山(うえやま)工務店に再び修理、彫り物の補修を行い、多くの方々のご協力もあって盛大に2020年12月6日に入魂式(にゅうこんしき)を挙行し、2022年6月5日にお披露目(ひろめ)曳行(えいこう)を行ったのも、皆様の記憶に新しいことでしょう。

長野の「だんじり」は、河内長野市に存在する25台の中でも、歴史の古さ、製作者の格(かく)の高さから、トップクラスの「だんじり」であることは間違いありません。

歴史と伝統ある長野の「だんじり」をじっくりとご覧ください。

おいさー(大きい声で)

② 古野（ふるの）長野地区

皆さま、おはようございます！古野地車保存会です。

本日、他町の皆さまと共に商店街パレードに参加できましたことに御礼申し上げます。各町内会の皆様方と共に楽しく安全な秋祭りを実施できるよう、日々努力致しております。

只今、曳行致しております地車は2代目で、初代は「堺型にわかだんじり」でした。現在の2代目は明治初期の作で堺型と住吉型の折衷型といわれております。平成9年に堺市草部の太井(たい)町より購入、翌年の平成10年から曳行しておりますこのだんじりは、平成30年9月に「平成の大修理」を実施しました。より雄壮で華やかになった古野のだんじりを、じっくりと御覧くださいませ。

先代から受け継がれた古野の伝統である鳴り物は大太鼓と小太鼓のみで、鐘や笛はございません。「竹バチ」を使った小太鼓の心地よい高音と、重量感ある大太鼓のコントラストをご堪能ください。

これからも古野地車保存会への厚きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

それでは皆さんと一緒に、おいさー！

③ 松ヶ丘（まつがおか）千代田地区

河内長野市市政70周年、誠におめでとうございます。

我々、松ヶ丘は河内長野市の最北部に位置し、かつて南河内郡千代田村の「与通北」（よつきた）呼ばれていた地区で、1969年の町名変更時に国道310号より東側を「松ヶ丘東町」、国道310号と西高野街道の間を「松ヶ丘中町」、を西高野街道より西側「松ヶ丘西町」となりました。

松ヶ丘の地車（じくるま）の歴史は、明治29年に和歌山県橋本市東家北（とうげきた）寺脇が新調し大正初期に松ヶ丘が寺脇より購入したものです。

今日まで新調当時の原形や雰囲気を変えずに3回の修繕を行い大切に保存して参りました。

松ヶ丘の地車の形式については一般的に上だんじりで堺の住吉型になります。

地車研究家の間では「大佐のだんじり」と呼ばれております。

また彫り物については明治29年の世相や時代の風情を今に伝える貴重な文化財としてご覧ください。

最後になりましたが松ヶ丘連合町会並びに松ヶ丘のだんじり団体、そして令和6年度の曲淵団長率いる松ヶ丘菊水青年團は、この節目の年に市民の皆様と共にお祝いし、これまでの70年を振り返ると共に河内長野市のますますの発展と未来へつなげる年になりますよう、市民の皆様と力を合わせてこの古き良き歴史あるだんじり祭りを後世に伝え頑張っていきますのでどうぞご期待ください。そして今年10月の秋祭りも是非、河内長野市に足をお運び頂き豪快なだんじりぶん廻しをご覧ください。

④ 片添（かたぞえ）三日市地区

河内長野市市政70周年、誠におめでとうございます。

片添は三日市地区の最南端に位置します。地車は、東片添町と西片添町で協力の元、曳行しております。

歴史としては、100年80年以前から伝えられてきたと聞いております。

現在の地車は、以前のだんじり老朽化にて、現在のだんじり、昭和62年に和泉市上代町で新調されただんじりを平成20年に購入して、平成21年5月24日、井上工務店で改修後、現地車を曳行しております。

また、令和2年度に文化庁の地域文化財総合活用推進事業の助成を請け地車の修復を行いました。

片添（かたぞえ）地車だんじりは

特徴として、上地車の良さ、控えめで昔ながらの折衷型となっております。

折衷型ですが、昔ながらの切妻屋根を採用しています。

どの彫物豪華絢爛で、特に、柱巻の龍、屋根の獅子嚙は、上地車の特徴です。

また、見送りは、大坂夏の陣と伝統ある地車です。

製作年は、1987年（昭和62年）

大工：池内福治郎

彫刻：中山慶春

土呂幕正面には「高砂（爺婆）じょうとんば」

見送り「大坂夏の陣」には、井波の中山慶春（けいしゅん）
後屋根懸魚には「猿掴む鷲」、車板には「加藤清正の虎退治」
となっております。

これからも、大切に、村の宝として、曳行を続けてまいります。

⑤ 鳴尾（どんと）千代田地区

河内長野市市制施行70周年おめでとうございます。

私たちの地域は「なるお鳴尾」と書いて「どんと」と読みます。河内長野市北端部、富田林市須賀町に隣接します。

鳴尾どんと地区は、1649年寺ヶ池築造に伴う市村新田開発依頼、稲作を中心とした集落が形作られ、生活が営まれてまいりました。五穀豊穰を感謝するだんじりは、昭和初期まで2台存在していましたが、他所に譲渡され、昭和中期から平成25年まで神輿だんじりを曳行して来ました。

近年は急速な市街化で、農地は激減していますが、地域活性化の為に、現在のだんじりを平成25年に大阪狭山市池之原から購入しました。

昨年で10周年を迎えました。だんじりを中心に、多くの子ども達、若者が集まり、鳴尾地域の絆つくりになくってはならない存在となっています。

地車は堺型で、江戸末期に製作され、大正15年に奈良県大和高田村より大阪狭山市池之原自治会を経て鳴尾自治会に来ました。彫物以外は昭和61年新調の大改修を行っています。歴史あるだんじりを大切に守りながら、後世に引き継いでいきたいと思っています。

河内長野市民の皆様と共に、市制70周年を祝い、地域活性化の為に取り組んで行きましょう。

⑥ 小塩（おしお）三日市地区

河内長野市政70周年を迎え、ここに盛大な地車曳行を挙行出来ることは誠に喜ばしい限りです。また市中心部において皆様方のご協力の元、地車曳行が出来る事は後世に残る出来事と記憶に残るでしょう。

小塩町は三日市駅ら見て南西部に位置します。町名の由来は昔鉄分の多い冷泉が湧いていたところから「塩」の字が付けられ「小塩」と呼ばれるようになったと伝えられています。

小塩町の地車は明治中期に旧堺の新在家濱より購入されたものである。この地車は堺彫所こと「彫又」・初代彫又の枡屋又兵衛で大工は同じく堺の木村一門で天保年間に制作されたものと見られます。平成4年に大改修をいたしました32年という歳月が経過し、各部の損傷も激しく老朽化も進みましたので令和5年度から文化庁の地域文化財総合活用推進事業の助成金を請け岸和田の南工務店において大改修を行い今年4月29日に入魂式とお披露日식을終え今日に至っております。

これからも小塩町は自治会、世話人会、塩友会、青年団、少年団が協力しあいながら今後もハード面ソフト面共に充実し安全曳行に努め、秋祭りには「小塩のぶん回し」を見に来ていただき、皆様に喜んで見て頂けるような祭りをしていきたいと考えております。

⑦ 楠（くすのき）千代田地区

河内長野市市制施行70周年 誠におめでとうございます。

楠町のだんじりは明治時代に小山田村(現河内長野市小山田町)が所有しておりました。

当時、小山田村において大規模な火災が発生したが、小山田村は消防車両を所有していなかった。

そのため、2台所有していた地車のうち1台と楠町所有の消防車両を交換したとされています。

型式としては擬宝珠勾欄堺型となっており、見送りが正面のみ出人形仕様となっているのが特徴です。

秋祭りでは楠町自慢の彫物・ぶん廻しを見に、10月12日、13日は是非楠町へお越しください。

⑧ 南部（なんぶ）三日市地区

三日市町は約 1,200 年前に、弘法大師空海が高野山を開いた時から明治に至るまで、高野街道沿いに発展し栄えた宿場町です。南部は三日市地区の中の三日市町駅を中心とした地域になります。

三日市町は以前、^{しんこうかい} 信交会・^{たいしょうかい} 大正会・^{しょうしんかい} 昭信会の 3 町会でしたが、平成 14 年に 3 町会が合併し、三日市町会が発足いたしました。現在秋祭りは、町会、世話人会、秋祭保存会、^{わかがしら} 若頭、^{ともえかい} 巴会、青年団が協力し行っております。

先代の^{だんじり}地車は、北部と共有で大型の^{だんじり}地車でしたが、明治期に事故のため売却したと伝えられております。

現在の^{だんじり}地車は、明治 21 年 8 月 8 日に ^{すみよしだいさ} 大工：住吉大佐・^{ほりまたいもん} 彫刻：彫又一門にて新調との^{すみ ぼ}墨書きがあり、^{で にんぎょう} 出人形 ^{いたこうらん} 板勾欄 ^{さかいかた} 堺型の^{だんじり}地車であります。

この^{だんじり}地車を、大正 8 年に^{ほったたけさぶろう} 堀田竹三郎氏が中心となる地元有志が和泉方面より購入したと伝えられておりのち、^{すみよしだいさ} 昭和 2 年 住吉大佐にて修理

昭和 52 年 天王寺区の梶内だんじりにて修理

平成 18 年 岸和田市の植山工務店にて大修理を行い、現在^{えいこう} 曳行しております

主な彫り物は、^{おにいた} 鬼板 正面「^{ほうじゆ} 宝珠を^{つか} 掴む^{せいりゆう} 青龍」 後ろ「^{し が み} 獅子囃」 ^{ほんぎよ} 懸魚 正面「^{ほうおう} 鳳凰」 後ろ「^{うんかい} 雲海」 ^{いたこうらん} 板勾欄 「^{げんべいかつせん} 源平合戦」 ^{ほしらまき} 柱巻き 右側「^{よしつねはっそう} 義経八艘飛び」 左側「^{よしつね} 義経を追う^{たいらのりつね} 平教経」

^{さんまいいた} 三枚板 正面「^{こうてい} 黄帝を助け^{しゆう} 蚩尤と戦う^{おうりゆう} 応龍」 右面「^{かとうきよまさきゆうせん} 加藤清正勇戦」 左面「^{さかいいきゅうぞうゆうせん} 坂井久蔵勇戦」で

す。大正 8 年に購入し、今年で 105 年になりますこの^{だんじり}地車

先人たちが大事に守り続けてきた歴史あるこの^{だんじり}地車を、後世へ引き継いでいき、安全で楽しい^{だんじり}地車

^{えいこう} 曳行、秋祭りを続けていきたいと考えております。

⑨ 木戸本郷（きどほんごう）千代田地区

河内長野市市制施行70周年、誠におめでとうございます。

木戸本郷地区は主に千代田駅西側の一部の地域の名称です。

明治初期には市村新田（いちむらしんでん）という村名でありましたが、明治22年の町村制施行により、市村・市村新田・向野村の3村の合併で「市新野村（いちしのむら）」が発足しましたが、大阪府より村名が不自然との指摘があり、大正5年に「千代田村」に改称。なお、千代田とは大正天皇が即位されたことにより、江戸城の別名である「千代田城」に因んだものであると伝えられています。なおこの時に大字市村新田を「木戸」と改称し現在に至ります。

木戸本郷地車は明治15年頃の製作とされておりますが、詳細は不明です。明治20年代後半に住吉方面より購入と伝わっており、3度の修繕を経て現在に至ります。

大工は堺の大工とされておりますが石坂地車と酷似していることから、萬源作の地車と思われませんが、決定的な墨書きがないことから特定には至っておりません。彫り師は彫又二代目西岡又兵衛の三男、西岡弥三郎の作品となっております。

板勾欄堺型の木戸本郷地車は、柱巻き・勾欄に賤ヶ岳の合戦を用いた彫刻が施されております。合戦の彫刻には槍や刀が刺さる瞬間の「寸止め」が一般的となっておりますが、木戸本郷地車の板勾欄正面にはその常識を覆す「槍の貫通」が彫刻されており、見る人の度肝を抜いてきました。

明治期の面影を色濃く残した地車を、木戸本郷地区がこれからも大切に曳行してまいります。

最後になりますが、河内長野市市制70周年を迎えるにあたり、このような壮大なイベントをご企画・ご尽力いただきました関係者様に、木戸本郷自治会・地車保存会・御影会・青年団より心から御礼を申し上げますと共に、これから先の河内長野市が益々発展されますよう、心から願い、ご挨拶に代えさせていただきます

⑩ 北部（ほくぶ）三日市地区

現在三日市町は自治会が北三日市町と三日市町に分かれており、それぞれ北部及び南部の名称で親しまれております。

北三日市地区は旧高野街道の中心で大名の宿場町で知られており、明治6年頃には旧三日市村役場、その裏には警察もありました。

横には現在の地車倉庫があり100年以上続いております。

明治中期に初代地車を中古で住吉方面から購入したと言いつたされており、牛で引っ張りながら帰ってきました。

村民の方々は家の屋号の入った提灯を持って千代田の石坂付近まで出迎えに行ったとも伝えられています。

地車の無い時代は屋号船を作り、数名程度乗って油屋温泉前の街道を引いていたとも言われています。

先代の地車も老朽化により曳行にも危険性があり、平成18年4月頃に地車世話人会の方々より地車購入が決定し、堺市菱木奥が所有されていた地車を購入するに至り、町会・若頭・若中・青年団とたくさんの方々が寄与され、平成19年7月に入魂式を挙行することになりました。

また、平成28年に文化庁の地域文化財総合活用推進事業の助成を請け地車の修復を行いました。

北部（ほくぶ）地車は、堺型の上地車です。

改修年：1986年（菱木奥にて）

購入及び改修年：平成19年（北部にて）

改修年：平成28年（北部にて）

※代表的な彫り物

柱巻き：阿吽の龍

3枚板：正面＝漢高祖龍退治(かんのこうそのりゅうたいじ)

右面＝源頼政鶴退治（みなもとのよりまさ ぬえたいじ）

左面＝源頼政鶴退治（みなもとのよりまさ ぬえたいじ）

など、様々な彫り物が刻まれています。

今後もこの地車を後世へ継承していきたいと思っております。

⑪ 市町西（いちちょうにし）千代田地区

市制施行70周年を心からお祝い申し上げます。

千代田地区に属しています市町西（いちちょうにし）です。

市町西は歴史ある千代田小学校と寺ヶ池に次ぐ大きさを持つ灰原池（はいばらいけ）の横から外環状線に抜ける道沿いにある町です。

市町西（いちちょうにし）の現地車（げんじぐるま）は三代目となりますが、先々代は製作年が1881年、明治14年頃の「擬宝珠勾欄堺型（ぎぼしこうらんさかいがた）」であり、明治から昭和28年まで曳行していたと伝わります。

さて、現地車（げんじぐるま）については上地車（かみじぐるま）をベースに下地車（しもじぐるま）の要素をミックスした形式のいわゆる『折衷型（せっちゅうがた）』と呼ばれるだんじりで、千代田地区で唯一の折衷型地車（せっちゅうがたじぐるま）となります。

昭和51年に新調された地車（じぐるま）で折衷型上地車（せっちゅうがたかみじぐるま）における新調ブームの先駆けとなった地車（じぐるま）でもあります。

大工は植山工務店の植山義正（うえやまよしまさ）氏作成、彫師は井尻彫刻所（いじりちょうこくしょ）の井尻翠雲（いじりすいうん）氏が手掛けており植山・井尻コンビの数少ない秀作地車です。翠雲氏（すいうんし）は、皇太子殿下、現今上陛下（げんきんじょうへいか）への献上物を作るほどの技術力に定評があり、翠雲彫り（すいうんぼり）として有名です。

是非お近くで当町の地車彫刻を見ていただければと思います。

本日は当町のぶん廻しを披露する事ができませんが、10月の祭礼時は千代田駅前にお越しいただき、千代田地区8台のぶん廻しを、夜は提灯をつけてのぶん廻しを是非ご覧下さい。

⑫ 上田（うえだ）三日市地区

市政70周年おめでとうございます

10年前上田町は新調が間に合わず不参加でしたが今回は河内長野パレードに参加出来て嬉しく思います

だんじり本体は折衷型で彫り物は楠木正成を中心に太平記統一彫りになっています

秋には各団体が一つになってだんじり祭りを盛り上げていきたいと思ひます

⑬ 西代（にしんだい）長野地区

西代のだんじりの見所は何ととっても彫り物の多さと緻密(ちみつ)さです。大屋根の正面には見ている者に睨(にら)みを利かす獅子嚙(しがみ)、それを支える柱の龍二体。

見送りには大阪夏の陣、馬を駆ける武者は稀代(きだい)の男張りの真田(さなだ)幸村(ゆきむら)。槍(やり)を振るうのは徳川方最強 本田忠勝(ただかつ)。

そして正面中央には、だんじりの顔とも言われる番号持ちに、あの悪党ともいわれた鎌倉時代伝説の武将 楠木正成 が巨大な枡の上で酒を飲む姿はなんとも勇ましい。

腰周り、足回りには伝説の精霊たち。

唐獅子。

龍の頭に鯉の体、虎の尾を持つ 鯪(しゃち)。

龍の頭に亀の体を持つ 龍亀(りゅうがめ)もいます。

団長 宮崎亮輔

会長は西代のムードメーカー、のんちゃんです。

是非、西代のだんじりをじっくり観ていただき、地域一番を誇り、粋な青年団が奏でる鳴物の音に胸を轟(とどろ)かせてください。

⑭ 喜多（きた）三日市地区

喜多は三日市地区の最北端に位置します。西には標高182mの烏帽子形山^{えぼしがたやま}、その山頂には南北朝時代に楠木正成が築いたとされる烏帽子形^{えぼしがた}城^{じょう}の城址^{じょうし}があり、現在は自然^{しぜん}散策^{さんさく}や史跡^{しせき}探訪^{たんぼう}のできる自然公園として整備されています。長野地区と隣接していることもあり、祭禮の際には河内長野駅周辺まで曳行し、三日市地区で唯一長野地区との交流があります。

秋祭りは町の各組織が協力して執り行い、幅広い世代間交流の場となっています。小さな子どもからおじいちゃんおばあちゃんまで、町会で一致団結して祭りを作り上げる、そんな昔ながらの「村祭り」を今も続けています。

喜多地車^{だんじり}は「住吉^{すみよし}大佐^{だいさ}」という地車^{だんじり}名門大工組が明治25年頃に製作しました。大佐^{だいさ}は今や全国区で有名となった岸和田の地車^{だんじり}大工^{だいこう}でさえ一目も二目もおいたと言われ、また施されている彫刻はそのほとんどが明治25年頃に製作された当時のものです。

彫物の作者は、そのノミ跡などから数々の地車^{だんじり}や寺社仏閣の彫刻を手掛けた大阪彫刻師集団「小松」の九代目小松源^{こまつげん}助^{すけ}を名乗った岡村^{おかむら}平^{へい}次郎^{じろう}ではないかと推測されます。彼は見るものをうならせる数々の地車^{だんじり}彫刻作品を残したいいわゆる「名匠^{めいしょう}めいしょう」と言われる彫刻師ですが、近年地車の新調や曳行の休止等によって今ではその作品の現存数も少なくなっています。彫刻の題材は、主に南北朝時代の太平記^{たいへいき}や安土桃山時代の賤ヶ^{しずが}岳^{だけ}の合戦^{かつせん}、平安時代の源平^{げんべい}合戦^{かつせん}や鎌倉時代の富士^{ふじ}の巻^{まき}狩^{かり}り風景など太古のものがほとんど、明治期にこのような題材の彫物が製作され、それが今なお現存しているというのは大変貴重な文化財価値があるのではないかと思います。

新調から約100年後の昭和62年、老朽化のため「昭和の大修理」を行いました。損傷のひどかった一部の彫物は新調して取り替えましたが、大半は灰^{あく}洗いや欠損部分の修復等をして使用し、さらに約30年後の平成29年には文化庁の地域文化財総合活用推進事業の助成を請け、より新調時に近い形に復元するための「平成の大修復」を行いました。

先人の方々が大切に守り続けてきたこの祭りと地車^{だんじり}を、未来^{みらい}永劫^{えいごう}後世に引き継げるよう、また市民の皆様にも応援していただけるよう努力したいと思います。

⑮ 市町東（いちちょうひがし）千代田地区

市制施行70周年、誠におめでとうございます。

我が町は大阪外環状線の東側、東高野街道沿いに位置しており、千代田神社の宮本の町です。

かつては市村と呼ばれ、大昔にはこの地域で最も栄えた市場があり、人々の往来が激しく繁盛を極めていたという話が残っている、歴史ある町です。

町の宝であるこの地車は、昭和初めに村の人々が堺方面から人力で持ち帰ってきたものであり、子供達もおにぎりを持って現在の松ヶ丘まで迎えにいったと伝えられています。

新調当時から残っている大屋根後ろと小屋根にある獅子嚙(しがみ)が自慢の彫物で、

平成2年に大修理を行い、今日まで大切に受け継がれてきました。

千代田神社秋季例大祭に伴う地車曳行では、地声を振り絞った「掛け声」や、南河内地域で多く聞かれる「唄」、シークレットと呼ばれる「創作太鼓」など、様々な文化が流入する、街道沿いの町ならではの他には無い祭をしております。

今年は10月12日、13日です。是非、お越しください。

⑩ 石坂（いっさか）長野地区

石坂自治会では、全世帯の参加・協力、さらに長野小学校区の関係諸団体の皆様に支えていただき、自治会役員を始め、若頭・拾伍人組・青年團を含む石坂地車保存会が一丸となって、地車の曳行を行っております。

この地車は明治15年、堺の「萬源」で製作されたもので、いわゆる箱だんじり、または板勾欄堺型と呼ばれるものです。購入経路は不明ですが大正4年に堺の陶器方面から買われて来たと言われております。

大工は「萬源」事、木村源平。彫師は堺「彫又」三代目兄弟の西岡弥三郎の手によるものと言われており、細かい彫り物というより荒物の真髓を見事に見せ付ける名だんじりであります。

昭和63年には美原町の夏目司氏により修復され、さらに平成21年、岸和田市の吉為工務店にて22年ぶりに修理され、見事83年前の新調当時の姿を髣髴させるものに生まれ変わりました。

主な彫り物は「青龍」「牡丹に唐獅子」。柱巻には「昇龍降龍」、見送り三枚板には朝鮮の役より「加藤清正の勇姿」「後藤又兵衛虎退治」「李如松」など臨場感あふれる自慢の彫り物であります。幼かった頃、太鼓の音に惹かれた秋祭りの楽しさは今も懐かしく心に強く残っております。それだけに今を生きる私たちは、永年にわたり先輩の培ったあらゆる郷土の歴史と香り高き文化と伝統を育み後世に伝承すべき義務があります。こうした事から、小さな組織であっても石坂自治会一同、石坂地車保存会一同、一致団結のもとに輝かしい秋祭りに今後とも精一杯の努力を重ねる所存であります。

⑰ 向野（むかいの）千代田地区

市制施工70周年記念行事の開催、誠におめでとうございます。向野町でございます。
向野のだんじりは明治30年頃に住吉から旧向野村まで牛と子供にお菓子を渡して手伝ってもらいながら持ち帰ったと伝えられております。

板勾欄塀型（いたこうらんさかいがた）の中でも指折りのだんじりと言われており、
正面柱巻には三韓征伐（さんかんせいばつ）

後方三枚板の正面には「漢高祖の龍退治」（かんこうそのりゅうたいじ）

左には「雄略天皇の猪退治」（ゆうりゃくてんのうのししたいじ）

右、「鬼若丸の鯉退治」（おにわかまるのこいたいじ）が描かれております。

この「鬼若丸の鯉退治」は数多くのだんじりに描かれている中でも随一とされています。

向野町自慢の彫り物だんじりをこの機会に是非ご覧下さい。

秋祭りでは自慢のぶん廻しに自慢の曳き唄で練り歩く姿がみられ、

総勢100人を越える曳き手たちが迫力満点のだんじり祭りをお見せいたします。

今年は10月12日・13日に秋祭りが開催されます。

是非、向野町へお越しくださいませ。

⑱上原（うあはら）長野地区

上原のだんじりは、河内長野では数少ない「堺型だんじり」で、明治20年代以前の作と言われ、板勾欄堺型の傑作と言われています。

他のだんじりでは幔幕(まんまく)を張っている正面や側面にまで、「賤(しず)が岳の合戦(七本槍(やり))」などの大型で丸みを帯びた深みのある彫り物を施してあります。

また、大屋根天井部にも彫り物があります。

明治20年以前の作と言われ、明治期に堺小阪の地車大工「堀内(ほりうち)市松(いちまつ)」より購入。寸法は、長さ5.08m、高さ3.58m、屋根幅1.78m。

上原のだんじりは「シンプル&セーフティー」が信条。

特に、灯入れ曳行は、提灯そのものが簡素で美しく、その揺れる姿は雅(みやび)やかです。

昼の姿も夜の姿も河内長野で一番だと自負する自慢の地車を是非ご覧ください

⑱ 高向上町（たこうかみまち）高向地区

高向上町の地車は、型式が住吉型三枚板形式で、銘板が東成郡住吉大佐で、制作年度が明治30年、制作大工が川崎宗吉で彫刻師が小松源助になります。

高向三町会共に彫物も優秀で特に上町会のそれは優秀とされて居り、平成9年地車を岸和田市内の植山工務店にて大修理を行い現在に至ります。

⑳ 原（はら）長野地区

原地区のだんじりです。

みなさん、原地区町会です。こんにちは！

私たちが住んでいる所は東は南海電車の線路あたりから、西は長野高校までのあたりです。現在は、外環状線など大きな道路が通り、市役所やお店もありますが、昔は稲穂がたくさん実る「たんぼ」が一面に広がっていたことでしょう。

現在このだんじりは、二代目です。

三年の月日をかけて、昭和63年10月に新しく出来上がりました。

造りは住吉型と言われる上だんじりですが、後ろ側の見送りの彫り物があるのが、原町のだんじりの特徴です。

彫り物は金剛山の裾野すそに住む私達には、なじみのある『楠木正成公』です。

だんじりの前には、楠木正成が足利尊氏との決戦を前にし、長男「まさつら」と別れるシーンを描いた『桜井の別れ』です。だんじりの後ろには、楠木軍が色々な戦術を用いて、鎌倉幕府と戦う『千早の合戦』が描かれています。

だんじりを新調して20年がたった平成20年にはだんじりを洗いかけだんじりも新調当時の輝きとなりました。

黄金色に輝く稲穂の中をだんじりが進む風景は、数少なくなりますが「明るく・楽しく・安全に」を合言葉にこの立派な遺産を守り、秋祭りという伝統文化を、正しく、末永く、後世に継承していきたいと考えております。

最後になりましたが、心より河内長野の地車祭りをお祝い申し上げます。

②① 高向中町（たこうなかまち）高向地区

高向中町会の地車は、「明治28年頃、東成郡住吉村にて制作されたもので、住吉型 三枚板形式で、製作者は当時、河内・和泉で名を馳せた“大佐”の宮大工・川崎宗吉。又、地車に描かれた繊細で彫の深い古戦場の彫刻は小松源助の作」と伝えられています。

高向神社に残る 文久三年（1863年）の絵馬“高向神社祭礼図”に描かれた当時の祭礼と、現在の祭礼が全く同じであり地車や絵馬の貴重な文化財に伝承の重みを感じます

② 野作（のうさく）長野地区

野作という地名は、野村と惣作そうさく村という二つの村が合併して「野作村」となり、それが現在の野作町という町名になりました。昭和40年代以降は旧野作町の地域「寿町」「昭栄町」「西之山町」「野作町」の4つの町に分かれて現在に至っています。

野作のだんじりは、今から約百年余り前に、堺から購入したものと言い伝えられています。当時の野作村が、今の「花の文化園」近くにかなり広い土地を所有しており、その土地を売ってようやく購入できたそうです。だんじりを購入した当時の道は、現在のように舗装されておらず砂利道でしたが、当時の村人は大変力が強く、わずか3人で曳いて帰ってきたと言われていました。

こうして先人が苦勞して手に入れただんじりを、伝統文化として多くの人に継承され後世に伝えてゆくという名誉ある役割を、保存会・青年團と自治会が一丸となって努めます。

1年を通じて寄合を重ね、だんじり祭の活性化を目指しています。

②③ 高向下町（たこうしもまち）高向地区

摂津の国住吉郡「大佐」十一代目川崎仙之助の作で、彫師は小松源助、制作年は明治28年1月25日との記録があるが、一部記録によると、「大正14年10月24日地車移り行く」との記録があり、丁度その時期に横転事故があり、新たに同型の地車と買い替えたのが、現在の地車ではないかと思われる。平成11年に岸和田の植山工務店にて、大修理を行う。地車の彫物には「賤ヶ岳の合戦」「大坂夏の陣」「牛若丸、弁慶五条大橋の出会い」「加藤清正虎退治」などが彫り込まれております。

②④ 下西代（しもにしんだい）長野地区

型は折衷（せっちゅう）型、制作大工は池内福次郎、彫刻師は中山慶春（としはる）。

昭和61年高石三区にて新調されました。

平成28年度に工務店は泉谷工務店、彫刻は木彫前田工房の手によって大改修されました。

下西代保存会一同、此度の市制70周年お祝い申し上げます。そしてこの街の未来永劫の発展

を祝してオイサー！！

②⑤汗成塾育成会（かっせいじゅくいくせいかい）

今までは、育成会が存在し存続することに価値や意義を見出そうと懸命でありましたが、今後は、既に存続している歴史ある河内長野の秋祭りへの理解を深め、また、秋祭りに携わって来られた諸先輩方々のその思いへの共感を寄せていきたいと考えております。

古今の秋祭りへの理解と共感を深めることで、共に秋祭りを語る団体として、皆様に認識していただけるように努力してまいりたいと考えます。

これからも先人の経験を聞き、より一層、汗成塾育成会の向上をはかってまいります。

②⑥千代田石坂（ちよだいっさか）千代田地区

こんにちは『千代田石坂』です

河内長野市市政施行70周年おめでとうございます

千代田石坂は、市北部 木戸西町にあります

だんじりは、明治初期に作成された物で

明治末期に堺市岩室から購入されました

古い上地車の姿

獅子囃、唐獅子、飛竜、猪退治、虎退治、鷲退治、龍退治など

勇壮な彫物の

板勾欄出人形堺型の百年だんじりです

どうぞご覧下さい

最後に河内長野市の益々の発展を祈念し

共に歩んで行きたいと思います